

台湾大学所蔵の東高木家文書について（調査概要報告）

The Higashi-Takagi Family documents held by National Taiwan University:
A general survey report

名古屋大学大学院人文学研究科
Nagoya University Graduate School of Humanities

池 内 敏
IKEUCHI, Satoshi

Abstract

This paper discusses the results from a survey of the Higashi-Takagi family's historical documents, initially held by Taihoku Imperial University (TIU) and inherited by the National Taiwan University (NTU) Library. The survey was conducted on three occasions, during June, August, and December 2017.

The Higashi-Takagi collection consists of materials purchased and registered for use in Japanese history (kokugakushi) lectures at the Taihoku Imperial University the Literature and Politics division. The collection includes 43 items spanning from the beginning to the middle of the 19th century. Each item concerns the duties borne by the Takagi family during the passage of Ryukyu envoys. A provisional organized catalog is included in the report.

Keywords

Higashi-Takagi family documents（東高木家文書）, Ryukyuan Mission（琉球使節）,
Taihoku Imperial University（台北帝国大学）, National Taiwan University（国立台湾大学）

はじめに

本稿は、科研費基盤研究（B）「旗本高木家文書を中心とした分散資料の統合と共有化に関する研究」（課題番号15H03237、研究代表者は石川寛・名古屋大学附属図書館研究開発室・特任准教授）の研究分担者として行った史料調査の概要報告である。調査対象は国立台湾大学図書館所蔵の東高木家文書である。なお、本調査は、琉球大学法文学部の豊見山和行教授より情報提供を得て行ったものであり、当初は下記のごとく文書自体の存否確認から始まった。それがおそらくは東高木家文書の一部であることは、調査の結果得られた文書群の内容と台湾大図書館の図書購入台帳の記載から判断されたものである。以下にこれまでの調査概要を記しておきたい。



台湾大学図書館

1. 調査概要

2017年6月7日（水）午前9時過ぎから台湾大学図書館を訪問した。同館5階にある特蔵組（貴重書図書室）を利用するには台湾大学専任教員の同行が必要とのことで、台湾大学文學院の辻本雅史教授（現在は中部大学教授）と同じく曹景恵副教授のサポートを得て調査を行った。調査参加者は以下の通り。

池内敏（石川科研の研究分担者、名古屋大学人文学研究科教授）

程永超（名古屋大学文学研究科DC3）

イゴル・コロチンスキ（同MC2）

木村可奈子（京都大学人文科学研究所教務補佐員）

特蔵組のうち日本関係・琉球関係資料を担当する司書林雅恵さんの協力で、蔵書目録の検索およ

び特蔵組書庫に入れていただいていたの現地検索との二通りのやり方で高木家文書の所在調査を行わせていただいた。7日午前中に、まずいちど書庫内に入れていただいたものの、やみくもに探すのも手掛かり不足で難しかったから、しばらく目録検索に重点をおいて探すこととしたが、なかなか行き当たらなかった。

昼食後しばらくして、目録検索ではほとんど見つかりそうになかったので、書庫内の直接検索を再開した。その折に、「長澤文庫」「大鳥文庫」といった文庫に整理されていない「非文庫資料」の書棚を中心に検索した。そうしたところ、まことに偶然に、帙に収められた古文書の束に気づき、その場で開いて眺めたところ、「美濃国」「交代寄合」等々の文言が目飛び込んできたので特別閲覧室へ史料を移し、そこで内容の点検を行った。

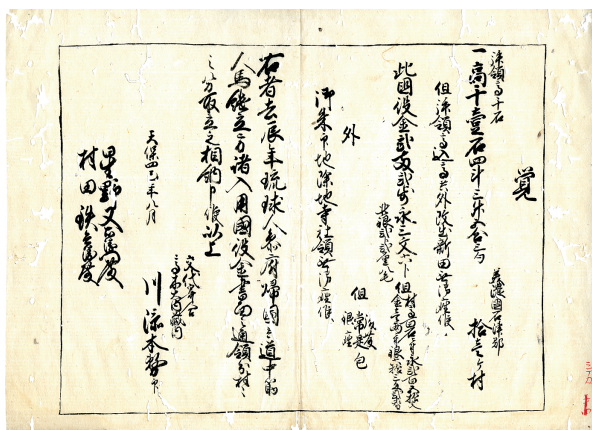


史料の全体像

6月8日（木）も朝9時から作業を再開し、一日中かけて資料整理を行った。この日も辻本雅史教授のサポートを得、また特蔵組の洪玉珠組長ともご挨拶をした。

帙に収まった史料の保存状態が必ずしも良好ではなかったため、積み重ねられた順序をなるべく動かさないように、上から順に一点ずつハトロン紙で挟み、一点ごとに仮番号を付した。ただし、袋綴の断簡と思われるもののうち丁ごとに右下隅に番号が振られているものがあり、これらはその番号順に並べ直して一括して一枚のハトロン紙に包み直した（後掲仮目録の仮番号39）。その後、程、イゴル、木村の協力を得ながら、一点ごとのカード取りを始めた。史料点数は、精査すれば変わってくるものの、今回のハトロン紙で区別した総点数

は43点となる。これらのうち仮番号39の一部（1カット）と43の全部（6カット）については特蔵組の方でデータ化（jpeg）をしていただいた。



史料

その後、第二回目の調査（8月15日（火）から18日（金）まで）、第三回目の調査（12月17日（日）から20日（水）まで）を実施した。このときの参加者は、いずれも以下の3名である。

池内敏（前記）

程永超（前記）

酒井雅代（名古屋大学人文学研究科博士候補研究員）

台湾大学では調査者側による貴重書のデジタル撮影を認めていないので、この二回の調査では原本を前にして、三人で手分けして史料翻刻を進めた。翻刻は、史料の状態（大破等）によって解読不能な分を除き、おおよそ終了したものの、すべての翻刻文についての校訂を終えるところまでは手が回らなかった。そのため残念ながら本報告において史料翻刻文を全面的に提示することができないが、以下に項を改めて仮目録を提示することとしたい。

2. 台湾大学図書館所蔵東高木家文書

(1) 文書の伝来について

東高木家史料の収められた帙の題籤には「文化四、天保三、至十三、嘉永三 琉球人参府帰国ニ付国役金上納方 一件書類」と記されていた。帙の内側に「台湾帝国大学図書之印」(朱印)があり、「373600」「昭和13.6.30」の二つの青印(黒印)がある。「373600」は購入原簿の登録番号である。

台湾大学図書館に継承されている図書購入原簿を参照させていただいたところ、「登録番号373600」は、書名を「琉球人参府帰国ニ付国役金上納方ノ一件書（文化3—嘉永3ノ間東御役所ニ於テ書控ヘシメシ一件帳文書ナリ）古文書」としており、年月日欄には「昭和13年6月30日」とある。同じ年月日の図書がほかにもいくつも列举されるから、これは購入した期日というよりは購入原簿に登録した期日とみるべきかと思う。「受入先」欄には「巖松堂」、「価格」は「40円」、「保管者」は「国史」となっており、「備考」欄には「受入命令第429号」の印が捺される（ただし、429の数字のみ手書き）。

先の図書購入原簿によれば、登録番号373600の直前には以下のごとく琉球関係の書籍等が並ぶ。新井白石『南島志』写本（登録番号373594）、「琉球諸島調査書」写本（同373595）、森島忠良『琉球談』（同373598）、鍋田三喜『琉球入貢紀略』（同373599）。また琉球関係書とは言えないが、これら書目に挟まれて八木冬嶺『台湾書目年表』（同373596）、茂野幽考『奄美大島民族誌』（同373597）があり、東高木家文書の次には松本正純『近衛師団台湾征討史』（同3736001）、岐阜県本巣郡教育会編『本巣郡志』（3736002）が続く。これら書目はすべて「保管者」が「国史」である。こうした書名の列からすれば、このころにおそらくは琉球諸島関係の書籍が意識的に蒐集されていたのだろうと感じられる。東高木家文書が琉球使節関連の文書に限って購入されているのも、おそらくはそうしたこととのかかわりがあったのではないか。

(2) 台湾大学図書館所蔵東高木家文書・仮目録

さて、以下に示す仮目録冒頭の整理番号は、1.で述べたようなやり方で整理をして各文書に付した仮番号である。

- 1 年未詳、琉球人登城并上野御宮参詣行列横帳1冊 大破
- 2 天保四巳年八月、笠松元ノ中あて川本本務書状（琉球人参府帰国道中人馬継立方諸入用高役金ニ付） 1通
- 3 年未詳、川添本務あて三和六左衛門書状 1通
- 4 年未詳、某書状 *大破（虫損、固着）、開け

- ない
- 5 年未詳、八月三日付、川添本務あて加藤加藤吉書状
 - 6 年未詳、湯屋村、堂之上村、井上村、細野村、上村、時山村の石高と（国役）銀高 豎帳断簡
 - 7 年未詳六月廿日付、立木善左衛門・杉村源蔵あて酒井春之丞・大嶽半之進・三和十左衛門書状（大目付よりの触書写式通壺冊・道中奉行より御達書并御書付式通御順達、琉球人参府帰国道中入用国役金につき）一通
 - 8 大破、開けず
 - 9 已八月廿四日付、高役金につき覚書、川添本務あて（大破）
 - 10 （断簡、前欠）
 - 11 大破、開けず（平塚習、常是包、銀座といった用語が見える）
 - 12 年未詳八月八日付、川添本務あて加藤加藤吉書状
 - 13 年未詳七月朔日、多良御領分村々庄屋中あて富田九郎左衛門廻状 1 通
 - 14 年未詳、笠松手附手代中^ら国役金請取書（包紙のみ）
 - 15 卯七月十七日付、金子上納につき宮村ほか四ヶ村あて書面ほか（袋綴断簡）1 通
 - 16 （廻状包紙か？）
 - 17 年未詳八月三日付、加藤様あて三和書状
 - 18 年未詳（天保八年か）、琉球人国役金差出につき廻状類、1 通と袋綴 1 冊
 - 19 年未詳、役銀につき切紙 一紙
 - 20 卯七月十七日付、国役金触状、袋綴一冊（三紙） *綴目が外れた状態
 - 21 琉球人参府国役金一件、袋綴（部分、綴目外れ）1 冊？
 - 22 年未詳五月十三日付、琉球人高役金につき早川平内、百々彦一あて小牧寺太書状 1 通（大破）
 - 23 六月廿六日付、川添本務様あて三和六左衛門、加藤加藤吉書状
 - 24 亥八月付、琉球人参府国役金につき廻状覚袋綴一冊
 - 25 嘉永三年、琉球人参府帰国ニ付国役人金納方一件、袋綴 1 冊
 - 26 断簡 1 点

- 27 天保十四卯年八月、琉球人参府ニ付国役金納証文 袋綴 1 冊
- 28 天保十四卯年何月、琉球人参府ニ付国役金納証文下書 1 通（大破）
- 29 文化四卯年五月十三日付、琉球人国役金差出書（天保四年の追筆あり） 袋綴 1 冊
- 30 文化三年五月、琉球人参府帰国ニ付国役金差出帳入文書入袋 1 枚（大破）
- 31 嘉永三年六月、琉球人参府帰国役金上納方一件帳入（文書を入れる紙袋） 1 枚（大破）
- 32 天保十三年、琉球人参府帰国ニ付国役金上納方一件、表紙のみ 1 紙
去寅年琉球人参府帰国道中人馬継立方諸入用高役金相納候儀申上候書付 袋綴 1 冊（大破）
- 33 天保三年、琉球人参府帰国国役金納方差出帳入文書入れ 紙袋 1 つ（大破）
- 34 （大破、開けず）
- 35 天保三年、琉球人参府帰国国役金ニ付上納方一件、袋綴の表紙のみ、一紙
- 36 已七月朔日、琉球人国役金御役所上納之覚袋綴 1 冊
- 37 已七月朔日、琉球人国役金御役所上納之覚袋綴 1 冊
- 38 年未詳（文化四年より後）六月廿二日、北、東御役人中様あて西御役人共書状、一通
- 39 袋綴断簡
- 40 袋綴断簡、裏表紙のみ
- 41 袋綴断簡、大破
- 42 袋綴断簡、大破
- 43 已七月朔日、琉球人国役金御役所上納之覚袋綴 1 冊

おわりに

台湾大学所蔵の東高木家文書については、台湾大学図書館と協力の上で史料の修復保存および全点デジタル撮影を行い、それ踏まえて翻刻作業の仕上げを行うこと、そうした作業を経て史料の公開へと至ることが当面の課題であり目標である。

なお、本科研の課題とは直接には関わらないが、この史料調査を介して派生的に得られた課題のひとつを最後に掲げておきたい。

先に述べたように、東高木家文書が台北帝大の所蔵に帰した昭和13年ころ、台北帝大では琉球諸島関係の書籍が意識的に蒐集されており、それは

当然ながら購入者たる国史学講座の教員の側にそうした関心があったことの反映である。『台北帝国大学一覽』昭和13年版によれば、当時の文政学部国史学講座教授には中村喜代三、同助教授には小葉田淳が在任していた。昭和3年の台北帝大設立時の国史学講座には中村喜代三が講師としてひとり任じ、翌4年も中村助教授ひとりの在任であった。同5年に中村は国史学講座教授となり、講師として小葉田淳の名前が見える。同6年からの国史学講座は、中村教授と小葉田助教授の二人によって担われ続けた（以上、各年次の『台北帝国大学一覽』〈国立国会図書館電子図書館〉による）。中村、小葉田ふたりの研究経歴・業績にかんがみた場合、琉球関係史料への関心は小葉田のそれであったことは間違いなかろう。昭和13年のころ、小葉田は『台北帝国大学文政学部史学科研究年報』に中世日明関係史に関わる論稿を書き続けており、同年報の第7輯（昭和16年刊行）には「近世初期の琉明関係」なる論文を発表しているからである。

台北帝大のあった当時における国史教育と研究が、収集された古文書や書籍群を活用しながら、どのように進められていったのだろうか。またそのときに購入されて現在国立台湾大学に継承されるそれら史料群を、台湾の地で今後活用することにはどのような方法があり、どのような効果が期待されるだろうか。そのようなことを感じた次第である。

付記：本稿は、科研費基盤研究（B）「旗本高木家文書を中心とした分散資料の統合と共有化に関する研究」（課題番号15H03237、研究代表者は石川寛）による研究成果の一部である。